

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第22号 (2009 01)
事務局川西地区自主防災会

かがわ自主ぼう 飛躍の年に

香川県防災局長 川部英則

かがわ自主ぼう連絡協議会の皆さん 新年あけましておめでとうございます。

平成20年、皆様方には多大なご尽力をいただき、誠にありがとうございました。今年も、引き続きご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。

昨年を振り返ると、平成13年以来、台風の日本本土上陸がない一年でした。一方、ミャンマーのサイクロンや、中国四川大地震のほか、国内でも岩手・宮城内陸地震などにより大きな被害を被りました。本県は、渇水年でしたが、他県では、局所的な水害が頻発した年でもありました。いつもながら、常日頃からの備えや心がけが重要だと思知らされました。

明るい話題では、北京オリンピックやノーベル賞受賞など、我々も元気にさせてもらいました。特に、ノーベル賞受賞の4人の方々は、基礎的な学問を究められた成果であり、地道な取組みの大切さも教えてもらいました。

さて、明けて平成21年、丑年を迎えました。我が家でも、20年ほど前まで肉牛を飼っていたこともあり、牛に「親しみ」「穏やか」といったイメージを抱きます。どうか、今年も穏やかな年になるよう、願ってやみません。

一方、災害時に取り残された家畜たちの映像も印象的です。新潟県中越地震で山古志村に残された牛や鯉、中国四川大地震でも、体重が1/3に減った豚が助け出されたニュース。人はもとより、家畜やペットまでの命を全て救えることが理想ですが、まずは、人の命を守るべく、今年もいろいろな施策を市町とも連携しながら取組んでまいりたいと思います。

災害時に大きな役割を担っていただくことになる、本県の自主防災組織については、おかげさまで、組織率も活動内容もかなり向上しました。県としても、皆様方からのご意見もいただきながら、引き続き、県民の安心、安全につながるよう努力したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

特に、結成2周年を迎えられる「かがわ自主ぼう連絡協議会」には、今後とも、着実に進化を遂げられ、全国に「かがわ自主ぼう」ありと言われるようご尽力をお願いいたします。新しい年を迎え、私どもも、気持ちを新たに、初心に立ち返り防災対策に全力で取組んでまいりたいと思います。どうか皆様方におかれましても、今後とも変わらぬお力添えのほど、よろしくお願いいたします。

最後になりましたけれども、皆様、皆様のご家族のお幸せを祈念いたします。

本年もどうぞ、よろしくお願いいたします。



かがわ自主ぼうと共に

香川県防災局危機管理課

かがわ自主ぼう連絡協議会および関係者の皆様、新年おめでとうございます。昨年中は、大変お世話になり、ありがとうございました。今年も、よろしくお願い申し上げます。

去年は、台風の上陸もなく、県内では幸いにも災害の少ない年でした。このような状態が長く続いて欲しいものですが、「災害は忘れた頃にやってくる」という言葉もあるように、気を引き締めて災害に強い県づくりに取り組みたいと思っています。

14年間活躍した防災ヘリ。今年から新機材に



さて、本県の自主防災組織の組織率は、平成20年4月1日現在で56.1%となっています。補助事業などの効果により向上してきたとはいえ、まだ全国平均を約14%下回っているという状況です。補助事業が廃止になる20年度末の時点で組織率は60%近くになっていると思われませんが、まだまだ十分なレベルではなく、来年度からは、補助金に代わる新たな対策が必要な状況となっています。

また、組織率が向上するだけでは不十分であり、結成された組織が休眠状態では意味はありません。災害発生時に自主防災組織が機能しなければ、共助の目的を達成できませんので、他の地域の自主防災組織との交流や連携を図る中で、研修や訓練等に取り組むことも大切であると考えます。県としても、こうした視点に立った支援が出来るような施策を検討しているところです。そして、市町と協力・連携しながら、自主防災組織の活動促進を図っていくことも必要です。

このように、自主防災組織については、難しい課題が残されています。このため、結成しようとする組織への支援、防災訓練実施のノウハウの伝授、組織のリーダーに対する研修などに、市町と連携するとともに、かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様のお力をお借りして取り組んでいきたいと思っておりますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

防災訓練で避難所設営訓練中の自主防災組織



最後になりますが、皆様のご健康とご活躍を祈念申し上げて、年初のあいさついたします。

新しい年を迎えて



かがわ自主ぼう連絡協議会

代表世話人 岩崎 正朔



かがわ自主ぼう連絡協議会の世話人を代表して、新年をむかえ一言ごあいさつ申し上げます。

皆様におかれましては、輝きのある新年をおむかえしたものと、お慶び申し上げます。

平成16年の高潮と台風被害にさぬきの国もあわてふためき、しばらくの間は、自助・共助・公助の皆さん、熱を入れて防災・減災活動に力を入れておりました。

まもなく丸5年をむかえるにあたって、あのときの痛みが相当薄らいできているようです。それは当然のことと思っています。10年20年と緊張感を持って生活することは、至難のわざではないかと思えます。

しかし「備えあれば憂いなし」のことわざがありますように、平常時から訓練して、身体で覚えておく。「救助用資機材」「避難所用資機材」については、5～7年計画でキチンと整備する。といった具合に、小さな事の積み重ねが、大きな減災力となって地域の防災力アップにつながるのではないのでしょうか？

東南海・南海地震もカウントダウンの時代に入ってきております、かがわ自主ぼう参加団体、これまで以上に連携を強くして資機材の相互利用等、具体的支援も視野に入れた取り組みが今後、大切な要素になるのではないかと思います。

本年も皆様と共に活力のある取り組みを展開したいと念じておりますので、お力添えを賜りますようお願い申し上げます、年頭のごあいさつとします。

高松太田南地区防災訓練に参加



県防災訓練に小学生と参加



防災シンポジウムの紹介

北淡活断層シンポジウム2009

2008年5月には中国四川省で死者6万人をこえる巨大な被害地震が、約1ヵ月後には日本で岩手・宮城内陸地震が発生しました。四川地震では、地すべりによる天然ダムの形成や、校舎など公共建築物の倒壊に関心が高まりました。岩手・宮城内陸地震では、地すべり・崩壊・土石流といった土砂災害とともに、地震断層の発現が注目されました。これら2つの地震について、最新の調査成果を分かりやすく紹介します。

講演者：熊原康博（群馬大） 林 愛明（静岡大） 遠田晋次（産業技術総合研究所）
岡田篤正（立命館大学歴史都市防災研究センター）

2009年1月11日（日）午前9時30分～午後12時30分

普及講演会 「2008年中国四川地震と岩手・宮城内陸地震を考える」

2009年1月10日（土）午後1時～4時（受付は12：30から）

親子で体験！地震と防災（体験型地震・防災教育ブース） 開催

主催：北淡活断層シンポジウム実行委員会

[委員長：岡田篤正（立命館大学歴史都市防災研究センター）]

- ・普及講演会（1月11日）の参加希望者も申込みください。

申込先：北淡震災記念公園セミナーハウス

電話：0799-82-3400

E-mail：danso1995@yahoo.co.jp

- ・会場受付は、1月10日（土）は午前12時30分より、1月11日（日）は午前9時より行いません。
- ・受付時に、プログラムや講演資料などをお受け取りください。

防災とボランティアのつどい参加者募集〔講演会〕

■日時 平成21年1月10日（土） 13：00～15：30

■会場 香川県社会福祉総合センター 7階大会議室
（高松市番町1-10-35 TEL 087-835-3334）

■内容

13：00～13：10 開会・オリエンテーション

13：10～14：40 講演「阪神淡路大震災 神戸から伝えたいこと～地域の助け合い～」
講師 阪神淡路大震災の語り部 石畠幸治氏

14：40～14：50 質疑・応答

14：50～15：30 「大規模震災時の避難所経営について」
～過去の災害や静岡県作成のマニュアルなどから学ぶ～
説明 香川県社会福祉協議会

■参加申込

平成21年1月5日（月）までにTELか、参加申込書によりFAXでお申し込みください。
（定員200名、参加費無料）

■対象

災害ボランティア活動に関心のある方、自治会、自主防災組織、民生委員・児童委員、行政職員

■問い合わせ・申込先

社会福祉法人香川県社会福祉協議会

〒760-0017 高松市番町1-10-35

TEL 087-861-0546 FAX 087-861-2664

E-mail vc37@kagawaken-shakyo.or.jp